

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470900659		
法人名	特定非営利活動法人 はあとうおーむ		
事業所名	グループホーム たんぽぽ		
所在地 (電話番号)	広島県三原市和田3-10-19 (電話) 0848-81-0670		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成22年1月25日	評価確定日	平成22年2月5日

## 【情報提供票より】(H22年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 9 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	12.8 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	(木造ALC壁) 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	11 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田脳神経外科 ・ 得能クリニック
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、特定非営利法人(NPO法人)に属する2階建ての建物を活用した2ユニット(定員18名)である。昨年(平成21年3月)に移転したばかりであり、新しいホームである。以前のホームでの経験を活かし、建物内外も利用者及び職員が快適に生活出来るような構造設計となっている。リビングルームには、大きな窓を活用し、日光が入るよう採光されている。ホーム近くには、スーパーや協力医療機関があり、常に連携や協力体制がある。支援に当たる職員も、みんなで一緒に楽しく過ごせるように、寄り添いながら馴染みのあるサービスを提供し、事業所独自の理念である、「今、ここで楽しんで」「今、ここで笑い」「今、ここで輝いて」を念頭に置き、一人ひとりのペースでゆったりと生活ができるよう環境調整に努めている。家庭的な雰囲気や暖かい感じの安心感のある事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点でもあがっていた項目「地域とのつきあい」については、職員間で話し合いが設けて改善に向けて取り組まれている。昨年(平成21年3月)に移転された関係もあり、新しい地域、土地柄でのスタートとなる。ホーム周辺は、アパートなどの地域であり、近隣所との交流が難しい状況があるが、運営推進会議を通じたり、日々挨拶を交わしたりと、少しずつ地域に溶け込むよう努力されているのが伺えた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、全員で取り組む事が出来ていない状況がある。今後も、職員一人ひとりが自己評価の意義や目的を理解するためにも、積極的にこれらの自己評価を活用し、日々の点検や日常のサービスの質の確保・向上に取り組む事を望みます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、市役所高齢者福祉課、民生委員、家族、利用者が参加されている。内容としては、ホームの現状をさせて頂くことを中心に行っている。様々な機関が集まる中で意見交換を行うなか、また参加者からの意見や要望などの提案もあり、それらを活かしたサービスの質の向上に努めている。今後も各町内会との連携を深め、利用者の生活の幅が広がる事を期待します。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは、日常で変化などがある場合は、その都度電話連絡している。日々の暮らしの中での写真を送付したり、家族が来訪した際には、ホームでの生活状況を話しをし、家族の意見や希望を伺いそれらの意見を活かした利用者の支援または運営の改善に役立てている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>昨年(平成21年3月)に移転したばかりで関わりが少ない部分も有り、ホーム周辺部が、アパートなどで地域的に隣近所との交流が難しい状況がある。運営推進会議を通じ情報を得る事により、今後も出来る限り地域との交流を深め、社会の構成員として人と人との関わりを持ち、孤立しないように積極的に取り組んで行く事を望みます。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を念頭に置き、各ユニット共に理念の実現に向けて取り組んでる。日々自己点検に努め支援の実施をしている。また、業務をする中で、日々気づきなどがあれば気づきノートの活用し業務の改善などを図っている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに理念を掲げている。運営方針などに迷いが生じた場合は、ミーティングなどの機会を通じて確認などを行い、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年(平成21年3月)に移転して来たばかりで関わりが少ない部分もあり、ホーム周辺部がアパートなどの地域であり、隣近所との交流が難しい状況があるが、運営推進会議を通じ情報交換を行うなか、社会の構成員として人と人との関わりをもつよう努力がされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義について、職員全員への周知徹底が不十分である。職員全員で自己評価に取り組むことが出来ていない状況がある。		サービス評価の意義や目的を運営者や管理者が職員にわかりやすく伝え、職員全員が前向きに自己評価に取り組むことで、ケアの振り返りや見直しにつなげ、サービスの質の向上に活かしていくことが望まれます。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議には、市の福祉保健課や地域・家族代表・職員が参加して開催されている。参加者との随時連携を取り合いながら、情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議に市の福祉保健課が参加され、担当者との随時連携を取り合い、その中で情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常で変化などがある場合は、その都度電話連絡をしている。日々の暮らしの中で、写真を送付したり、家族が来訪された時は、ホームでの生活状況を伝え、家族の意見を伺ったこと活かしながら、利用者の支援又は運営に役立てている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当者の設置や、家族訪問時や随時、職員が話し合いをする場面を設けて家族の生の声を聞くよう努力されている。それらの意見をミーティングで報告し、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、短時間勤務の職員を対象に必要な最小限の異動にとどまるよう努力されている。やむを得ず異動がある場合は、引き継ぎ期間を取り入れ、利用者や家族が困らない体制作りを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修や外部研修に積極的に参加している。職員一人ひとりが質の向上のため資格取得を目指し、人材育成に取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャラバンメイト(認知症サポーター)を通じて、情報交換や職員交流を図り、サービスの質の向上に努めている。今後も、外部研修などを通じ、同業他社との交流も進めることを期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>すぐに入居になるケースが多いため、本人の納得を得る事が難しい状況がある。その中で出来る限りの情報収集を行い、個別対応については本人と家族に十分説明をし、納得の上利用して頂いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの個性を活かし、お互いが共同しながら和やかな生活が出来るよう場面設定をしている。ホーム独自の理念を念頭に置き、共に歩み、一緒に過ごすことを大切にした生活を職員全員が日々実践している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の生活歴(生育歴)を把握したなか、個別対応のサービスを提供している。又、ゆとりある時間帯を中心に利用者に極力寄り添い、本人の意向や要望をキメ細かく把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時や面会時に家族の希望や意向を把握している。得られた意見の情報を共有するなか、それらを基に介護計画に反映させた支援計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。また状態に変化などがみられた時には、随時モニタリングなどを行い、変更・修正などを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向でかかりつけ医を決定し、利用者のかかりつけ医の受診に職員が同行したり、必要に応じて往診するなど、適切な医療が受けられるように全面的に支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には「重度化した場合における対応に関する指針」に準じ、ホームとして最大限可能な支援を家族と十分に話し合いをもち、職員全員その対応方針を共有し支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は、利用者の名前を書かないようにし、個人情報やプライバシーが保てるように、各職員が配慮して、利用者の人権・権利を意識しながら日々の業務に取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気分と体調を考慮し、個人の希望に沿いながらの対応を行っている。また個人の要望などは、臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に決めたり、毎日買い物へ行き、食材の調達をされている。一人ひとりの好みを取り入れ、1日30品目を目標に食材及びメニューを考えている。個々の能力に応じて片付けが出来る方など、出来る事はして頂いている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの状況を把握するなか、出来るだけ希望に沿うように支援している。入浴拒否があれば、時間を置いたり、対応職員を変えたり、翌日へ変更したりと目配り・気配り・声配りを図りながら入浴が楽しめるよう支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の生活歴や日々の関わりの中から本人の役割や楽しみごとを見つけ出し、役割などを持って頂く事により、本人が出来ることはして頂く様にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩と外に出掛けたり、花の水やり、シーツ干しなど個々の能力に応じてして頂いている。又、本人の意思を尊重したり、時候や利用者の体調に合わせてながら、ドライブなどの外出支援なども行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は、安全確保の目的以外での施錠は行っていない。個々の利用者の傾向を把握し、日中は職員の見守りと玄関チャイムの活用を行い、一人ひとりが鍵をかけない目的を理解されており、日々実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルや風水害対応マニュアルが整備され、防災訓練を実施している。又、運営推進会議を通じて、民生委員との関わりを密に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目になるよう食事メニューを工夫している。体重測定や毎日の食事状況を把握をするなか、個々の食事形態や栄養摂取量に見合った食事の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した作品を取り入れ、季節に合わせた植物や飾り付けを行っている。リビングルームの前には、季節の野菜を植え成長を楽しんでいる。適度な採光が取り入れられ、居心地良く、一人ひとりが我が家のように生活されているのが伺える。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人や家族と相談しながら自宅で使っていた馴染みのある物品などを自由に持ち込まれており、居心地よく過ごせるように工夫している。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームたんぽぽ（1F）

評価年月日 平成21年 7月 26日

記入年月日 平成21年 8月 10日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 箱田 小百合

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	ホーム独自の理念を作っている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングで笑顔という言葉を出し、日々の中で笑顔をどれだけ引き出せるか声をかける様になっている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	外出の機会を多くして地域の人々に知ってもらう様にしている。スーパーでの買い物、散髪、病院受診、花壇の水やり、洗濯物干し、散歩、外食など		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	挨拶や玄関先の花壇の花を通して、声をかけたりの程度は出来ている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	3月に引っ越してきて、挨拶程度しか地域の人との関わりが出来ていない		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	キャラバンメイトとしてサポーター養成に協力している		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で行うことが出来ていない		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	内容が、報告や情報交換にとどまっている		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に市の高齢福祉課職員に参加してもらっている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	行えていない		勉強会を開き、職員の理解を深めていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	防止に努めてはいるが、学ぶ機会が十分とはいえない		学ぶ機会を増やしたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を取ってないに説明し、重度化や看取りの対応についても説明している		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	言葉として発せられる意見は採り上げているが、運営に反映するには至っていない		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来所時に近況報告をしたり、日々の暮らしの中での写真を送ったり、何らかの変化があったときは電話を入れるようにしている		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	機会を設けミーティングで報告し次に繋げている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	要望や意見を聞くよう声掛けてはいるが、不満や苦情は言い難い部分も多いと思われるので、把握しきれていない可能性もある		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	話し合いや調整は出来ている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	スタッフの移動は短時間勤務の職員のみで最小限にとどめている		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入社員に関しては計画を立て行っている 他のスタッフに関しては個人の力量、状況に応じて行っている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	実習生の受け入れ体制をとっているが、交流する機会や情報交換が出来ていない		他事業所との交流を今後行っていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	食事会や個々に声かけを行っている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	スタッフの資格取得に向けた支援を行うようにしている		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> </div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	サービス利用について相談があったときは、必ず本人に会って、心身の状態や本人に向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの経緯についてもゆっくり話しを聞くようにしている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況等を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている 他の事業所へ紹介も行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	すぐ利用になるケースも多いため、本人の納得を得ることは難しい現状である		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう、場面作りや声掛けをしているが、十分でない		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの出来事や、気付きの情報共有に努め、本人を支える姿勢でいる事を伝えようとはしているが、十分には伝えきれていない		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族の思い、本人の家族への思いを受け止めて両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院に行かれる方もある。 親戚、元近所の方の面会は歓迎している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶や食事の時間をスタッフも共にし少しでも 会話を多くするようにしたり、役割・活動等 を通して利用者同士の関係がスムーズに行くよう に努めている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関わりを必要とするケースが今は無い		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努め言葉 や表情などからその真意を推し測ったり、それ となく確認するようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族の訪問時など、少しずつ 把握に努めているが、なかなか情報がとれてい ない		入居者さんから少しずつ情報把握に努めて いく
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できること、わかることに注目し、その人の全 体の把握に努めるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で本人の思いを聞くようにして、計画に反映させるようにしているが、家族の要望が十分に聞けていない		家族の要望をしっかりと聞いていくようにする
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況が変化した際には、検討見直しを行っているが、十分でない		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを用意して、日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録している		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応するようにしている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換する機会を設けている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	車椅子、Pトイレ等購入の際には、情報交換やアドバイスをもらっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加してもらう事で、支援に関する情報交換ができるように努めている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、要望、状況に応じて対応している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームの看護師と常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴い事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>新しい住居でもこれまでの生活が継続できるよう、支援の内容、注意点について情報提供している</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>記録には利用者の名前を書かない様にし、他の家族や外来者に対して、スタッフが本人のプライバシーに関する話を話さないようにしている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>食事のメニュー（どんな野菜を食べたいか）など一緒に決める            買い物に行き食べたいおやつを選んでもらう</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>この人と一緒に決めてその時間はその人のペースを大切にしている            また体調にも配慮している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に美容院へ行き髪を整えている 朝食後、歯磨きをする時に自分の姿を鏡で見ってもらう様に声をかけている		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューを一緒に決めたり、片付けを出来る人にはしてもらい、職員と一緒に食事をし、会話を楽しむ		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人の嗜好を知り、買い物と一緒に行った時は食べたい物を選んでもらっている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分でトイレに行けない人は、時間を決め誘導、介助している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、日中に入ってもらっているが、本人が入りたくなければ翌日に回す様、本人の意志を尊重している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	いつでも自室へ行けるようにしているので、休憩したい時に行かれています リビングの畳でも横になる事が出来る		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	家でしてきた事をホームでも続けられるよう支援をしている		自分で植えた花や野菜の育っていく楽しみを味わってもらいたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が難しい面や, 利用者同士のトラブルを避けるためにも持っていない		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	買い物, 散歩と戸外に出掛けたり, 花の水やり, シーツ干しなど手伝ってもらっている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	季節の変化を感じてもらえる様、花や紅葉を見に出掛けたり外食したりしている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームでの様子とか, 出掛けた時や誕生日会の写真等を家族に送っている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会に来て頂ける様、時間は定めていない		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の申し送り、報告等で自覚しない身体拘束が行われていないか、ケアを振り返っている		研修に参加したら、その報告を基に勉強会を行っていく
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の外出の癖や傾向をつかむようにしている スタッフの見守りと玄関チャイムとで、鍵を掛けずに生活する事を支援をしている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	勤務交代時、昼夜を通して申し送りや日誌に変わった事があれば書く様にし、一目みたら分かる様にしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品は手の届かない場所や鍵を掛け、危険が無い様に安全に努めている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的に勉強会をし、何かあった時の連絡先等マニュアルを作っている		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	急変時、電話の手順を解りやすいように書いている 全ての職員が定期的には行えていない		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアル作成して避難訓練を行っているが全員参加は出来ていない		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用者の状態が変わればその都度話し合い、ノートを使いスタッフが同じケアが出来るように申し送りをしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化・異変があるときは、個人記録や日誌に赤で記入する様にし、管理者に報告する		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に毎食後の薬を分け、手渡してきちんと飲んだか確認している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	適度な運動や水分に気を付けている 便通時、分かりやすい様、記録には赤で書き、出ていない時は水分をしっかり摂ってもらう		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後スタッフ見守りの中、一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いを行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事状況を記録しスタッフが情報を共有するようにしている 1日30品目になるよう工夫している 薬の水をコップ1杯以上は飲んでもらう様にしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い早期発見・早期対応に努めるようにしている 外から帰って来た時には手洗い，出来る人はうがいをしてもらっている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板は毎日消毒し，食材は最低、熱湯消毒している 食材はなるべく買いためしないようにしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の前で車から降りられる様、配慮している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング前の庭には季節の野菜を植え、成長を楽しんでいる。また畳スペースでは足を伸ばしてくつろげる様にしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベンチ、ソファを置いて仲のいい利用者同士で寛げるスペースを作っている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みや馴染みの物などを部屋に持ち込んでもらい、居心地の良い生活空間作りに努めている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に換気するようにしている トイレは換気扇と消臭剤を使用		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に合わせて手摺りや家具の配置等工夫はしているが十分でない		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	家でしてきた事を同じように出来るよう、料理の支度や掃除、洗濯など支援している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や小さい庭の手入れを楽しんでおられる 夏は緑のカーテンを作る		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームたんぽぽ (2F)

評価年月日 平成21年 7月 26日

記入年月日 平成21年 8月 10日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 箱田 小百合

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	ホーム独自の理念を作っている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングで笑顔という言葉を出し、日々の中で笑顔をどれだけ引き出せるか声をかける様になっている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	外出の機会を多くして地域の人々に知ってもらう様にしている。スーパーでの買い物、散髪、病院受診、洗濯物干し、散歩、外食など		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物、散歩などの外出時、声を掛けたりする程度は出来ている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	3月に引っ越してきて、挨拶程度しか地域の人との関わりが出来ていない		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	キャラバンメイトとしてサポーター養成に協力している		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で行うことが出来ていない		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	内容が、報告や情報交換にとどまっている		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に市の高齢福祉課職員に参加してもらっている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	行えていない		勉強会を開き、職員の理解を深めていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	防止に努めてはいるが、学ぶ機会が十分とはいえない		学ぶ機会を増やしたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を取ってないに説明し、重度化や看取りの対応についても説明している		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	言葉として発せられる意見は採り上げているが、運営に反映するには至っていない		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来所時に近況報告をしたり、日々の暮らしの中での写真を送ったり、何らかの変化があったときは電話を入れるようにしている		書式を作って1ヶ月の様子を全員に送る
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	機会を設けミーティングで報告し次に繋げている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	要望や意見を聞くよう声掛けてはいるが、不満や苦情は言い難い部分も多いと思われるので、把握しきれていない可能性もある		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	話し合いや調整は出来ている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	スタッフの移動は短時間勤務の職員のみで最小限にとどめている		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入社員に関しては計画を立て行っている 他のスタッフに関しては個人の力量、状況に応じて行っている		年間計画を立てて毎月研修を行っていく
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	実習生の受け入れ体制をとっているが、交流する機会や情報交換が出来ていない		他事業所との交流を今後行っていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	食事会や個々に声かけを行っている		年に数回の個人面談を行っていく
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	スタッフの資格取得に向けた支援を行うようにしている		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> </div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	サービス利用について相談があったときは、必ず本人に会って、心身の状態や本人に向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの経緯についてもゆっくり話しを聞くようにしている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況等を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている 他の事業所へ紹介も行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	すぐ利用になるケースも多いため、本人の納得を得ることは難しい現状である		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう、場面作りや声掛けをしているが、十分でない		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの出来事や、気付きの情報共有に努め、本人を支える姿勢でいる事を伝えようとはしているが、十分には伝えきれていない		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族の思い、本人の家族への思いを受け止めて両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院に行かれる方もある。 親戚、元近所の方の面会は歓迎している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶や食事の時間をスタッフも共にし少しでも 会話を多くするようにしたり、役割・活動等 を通して利用者同士の関係がスムーズに行くよ うに努めている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関わりを必要とするケースが今は無い		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努め言葉 や表情などからその真意を推し測ったり、それ となく確認するようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族の訪問時など、少しずつ 把握に努めているが、なかなか情報がとれてい ない		入居者さんから少しずつ情報把握に努めて いく
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できること、わかることに注目し、その人の全 体の把握に努めるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で本人の思いを聞くようにして、計画に反映させるようにしているが、家族の要望が十分に聞けていない		家族の要望をしっかりと聞いていくようにする
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況が変化した際には、検討見直しを行っているが、十分でない		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを用意して、日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録している		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応するようにしている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換する機会を設けている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	車椅子、Pトイレ等購入の際には、情報交換やアドバイスをもらっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加してもらう事で、支援に関する情報交換ができるように努めている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、要望、状況に応じて対応している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームの看護師と常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴い事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>新しい住居でもこれまでの生活が継続できるよう、支援の内容、注意点について情報提供している</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>記録には利用者の名前を書かない様にし、他の家族や外来者に対して、スタッフが本人のプライバシーに関する話を話さないようにしている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>食事のメニュー（どんな野菜を食べたいか）など一緒に決める            買い物に行き食べたいおやつを選んでもらう</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>この人と一緒に決めてその時間はその人のペースを大切にしている            また体調にも配慮している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に美容院へ行き髪を整えている 朝食後、歯磨きをする時に自分の姿を鏡で見ってもらう様に声をかけている		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューを一緒に決めたり、片付けを出来る人にはしてもらい、職員と一緒に食事をし、会話を楽しむ		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人の嗜好を知り、買い物に一緒に行った時は食べたい物を選んでもらっている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分でトイレに行けない人は、時間を決め誘導、介助している		夜間、起きておられたらトイレ誘導する。 わざわざ起こさない
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、日中に入ってもらっているが、本人が入りたくなければ翌日に回す様、本人の意志を尊重している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	いつでも自室へ行けるようにしているので、休憩したい時に行かれています リビングの畳でも横になる事が出来る		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	家でしてきた事をホームでも続けられるよう支援をしている		自分で植えた花や野菜の育っていく楽しみを味わってもらいたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が難しい面や, 利用者同士のトラブルを避けるためにも持っていない		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	買い物, 散歩と戸外に出掛けたり, 花の水やり, シーツ干しなど手伝ってもらっている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	季節の変化を感じてもらえる様, 花や紅葉を見に出掛けたり外食したりしている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームでの様子とか, 出掛けた時や誕生日会の写真等を家族に送っている		書式を作り記録を残す
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会に来て頂ける様, 時間は定めていない		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の申し送り、報告等で自覚しない身体拘束が行われていないか、ケアを振り返っている		研修に参加したら、その報告を基に勉強会を行っていく
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の外出の癖や傾向をつかむようにしている スタッフの見守りと玄関チャイムとで、鍵を掛けずに生活する事を支援をしている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	勤務交代時、昼夜を通して申し送りや日誌に変わった事があれば書く様にし、一目みたら分かる様にしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品は手の届かない場所や鍵を掛け、危険が無い様に安全に努めている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的に勉強会をし、何かあった時の連絡先等マニュアルを作っている		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	急変時、電話の手順を解りやすいように書いている 全ての職員が定期的には行えていない		定期的に行っていく

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアル作成して避難訓練を行っているが全員参加は出来ていない		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用者の状態が変わればその都度話し合い、ノートを使いスタッフが同じケアが出来るように申し送りをしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化・異変があるときは、個人記録や日誌に赤で記入する様にし、管理者に報告する		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に毎食後の薬を分け、手渡してきちんと飲んだか確認している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	適度な運動や水分に気を付けている 便通時、分かりやすい様、記録には赤で書き、出ていない時は水分をしっかり摂ってもらう		運動量も把握する様にし、外出や体操も行う
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後スタッフ見守りの中、一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いを行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事状況を記録しスタッフが情報を共有するようにしている 1日30品目になるよう工夫している 薬の水をコップ1杯以上は飲んでもらうようにしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い早期発見・早期対応に努めるようにしている 外から帰って来た時には手洗い，出来る人はうがいをしてもらっている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板は毎日消毒し，食材は最低、熱湯消毒している 食材はなるべく買いためしないようにしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の前で車から降りられる様、配慮している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング前の庭には季節の野菜を植え、成長を楽しんでいる。また畳スペースでは足を伸ばしてくつろげる様にしている		プランターを使用しての野菜作りをしていく

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベンチ、ソファを置いて仲のいい利用者同士で寛げるスペースを作っている		廊下の片方だけにまとめておく様にする
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みや馴染みの物などを部屋に持ち込んでもらい、居心地の良い生活空間作りに努めている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に換気するようにしている トイレは換気扇と消臭剤を使用		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に合わせて手摺りや家具の配置等工夫はしているが十分でない		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	家でしてきた事を同じように出来るよう、料理の支度や掃除、洗濯など支援している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や小さい庭の手入れを楽しんでおられる 夏は緑のカーテンを作る		